

## 4 区ビジョン基本方針

本市は、平成17年に14市町村が広域合併することで、多様な魅力をもった地域が一つになり、平成19年4月には、市民、地域の力を活かして市民と行政が協働する分権型の都市を目指す、8つの行政区を擁する政令指定都市に移行しました。

分権型政令指定都市を実現するため、区を市政のメインステージとして位置づけ、地域のまちづくりや課題解決に向けた、区民と行政の「協働の要」として区自治協議会を設置したほか、政令指定都市移行と同時に着手した「新・新潟市総合計画」によるまちづくりでは、区役所の権限を強化し、行政区単位で地域の特色あるまちづくりを進めてきました。

総合計画における基本構想及び基本計画では、広域的、全市的な視点により示す都市像に加え、市内8つの区における地域的な視点に基づく、それぞれの区が目指すまちづくりの方向性を示します。

それぞれの区では、区民と行政が区の将来像を共有し、お互いに役割を分担しながら協働するため、区自治協議会に代表される区民と、区役所が協働して、区におけるまちづくりの基本的な方針となる「区ビジョン基本方針」を策定し、基本計画の一部として位置づけます。策定にあたっては、地理、産業などの「区の概要」とともに、「区の将来像」や「目指す区のすがた」を示し、区民と共有することで、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを進めていきます。

また、各区においては、この「区ビジョン基本方針」に基づき、まちづくりの具体的な取組みを明らかにする「区ビジョンまちづくり計画」を、区民と協働して策定し、取組みを推進していきます。

# 各区のすがた

項目		新潟市全体	北区	東区	中央区	
人口	総数 <small>(※1)</small>	平成22年人口(人)	811,901	77,621	138,096	180,537
		平成47年推計人口(人)	701,875	63,954	113,153	165,059
	15歳未満	平成22年人口(人) 割合(%)	103,346 (12.8)	10,243 (13.2)	18,420 (13.4)	21,097 (11.9)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	67,380 ( 9.6)	6,517 (10.2)	11,882 (10.5)	16,294 ( 9.9)
	15～64歳	平成22年人口(人) 割合(%)	516,311 (64.0)	49,678 (64.2)	88,217 (64.2)	117,426 (66.0)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	391,575 (55.8)	35,743 (55.9)	63,877 (56.5)	98,903 (59.9)
	65歳以上	平成22年人口(人) 割合(%)	187,371 (23.2)	17,477 (22.6)	30,700 (22.4)	39,495 (22.2)
		平成47年推計人口(人) 割合(%)	242,920 (34.6)	21,693 (33.9)	37,394 (33.0)	49,862 (30.2)
		単身高齢者数(人)	23,054	1,616	4,179	7,610
		65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%)	12.3	9.2	13.6	19.3
	人口動態	年間増減(人)	-1,452	-445	-175	407
		うち自然動態(人)	-2,073	-243	-222	-237
		うち社会動態(人)	621	-202	47	644
世帯	世帯数(世帯)	312,533	26,050	54,447	85,405	
	1世帯あたりの人員(人)	2.60	2.98	2.54	2.11	
	核家族の割合(%)	54.2	57.6	58.4	47.7	
	単独世帯の割合(%)	30.6	21.2	28.8	44.2	
	3世代世帯の割合(%)	10.8	16.2	8.7	4.5	
面積	面積(km <sup>2</sup> )	726.10	107.92	38.77	37.42	

農業	農家戸数(戸)	12,690	1,992	362	254
	農業就業人口(人)	19,068	3,069	515	375
	うち65歳以上の割合(%)	53.9	55.8	52.2	48.3
	経営耕地面積(ha)	30,617	4,501	685	444
工業	事業所数(所)	1,160	181	220	161
	従業者数(人)	35,432	6,105	8,156	2,287
	製造品出荷額等(億円)	10,050	2,528	2,911	374
商業	事業所数(所)	7,853	557	1,167	2,647
	従業者数(人)	61,628	3,929	10,194	20,775
	年間商品販売額(億円)	31,664	1,202	5,292	12,824

資料：人口：国勢調査(H22)，推計値(新潟市全体)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」，推計値(各区)はH22国勢調査を基準として新潟市推計，人口動態は新潟県人口移動調査(H25)

世帯：国勢調査(H22)

面積：国土交通省国土地理院(H25)

農・工・商業：世界農林業センサス(H22) 経済センサス-活動調査(H24)

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目		
69,365	77,329	46,949	161,264	60,740	平成22年人口(人)	総数 (※1)	人口
68,834	67,638	36,798	141,792	44,920	平成47年推計人口(人)		
9,584 (13.8)	10,156 (13.2)	5,981 (12.8)	20,430 (12.7)	7,435 (12.3)	平成22年人口(人) 割合(%)	15歳未満	
7,677 (11.2)	6,640 ( 9.8)	3,482 ( 9.5)	13,103 ( 9.2)	4,163 ( 9.3)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
43,561 (62.9)	47,069 (61.0)	29,639 (63.3)	103,383 (64.5)	37,338 (61.6)	平成22年人口(人) 割合(%)	15~64歳	
39,887 (57.9)	38,493 (56.9)	19,101 (51.9)	80,590 (56.8)	22,563 (50.2)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
16,077 (23.2)	19,953 (25.9)	11,228 (24.0)	36,561 (22.8)	15,880 (26.2)	平成22年人口(人) 割合(%)	65歳以上	
21,270 (30.9)	22,505 (33.3)	14,215 (38.6)	48,099 (33.9)	18,194 (40.5)	平成47年推計人口(人) 割合(%)		
1,423	1,935	762	4,325	1,204	単身高齢者数(人)		
8.9	9.7	6.8	11.8	7.6	65歳以上人口に占める単身高齢者数の割合(%)		
-231	-228	-390	199	-589	年間増減(人)	人口動態	
-141	-313	-167	-359	-391	うち自然動態(人)		
-90	85	-223	558	-198	うち社会動態(人)		
22,963	26,141	14,113	65,255	18,159	世帯数(世帯)	世帯	
3.02	2.96	3.33	2.47	3.34	1世帯あたりの人員(人)		
60.7	58.3	53.9	54.2	52.7	核家族の割合(%)		
18.8	19.7	16.2	33.7	15.8	単独世帯の割合(%)		
15.0	16.6	24.1	8.2	25.1	3世代世帯の割合(%)		
75.46	95.38	100.83	93.81	176.51	面積(km <sup>2</sup> )	面積	

1,750	1,667	2,272	1,446	2,947	農家戸数(戸)	農業
2,506	2,162	3,627	2,491	4,323	農業就業人口(人)	
57.1	61.6	52.1	45.4	54.0	うち65歳以上の割合(%)	
3,424	3,556	5,918	4,081	8,008	経営耕地面積(ha)	
124	95	131	87	161	事業所数(所)	工業
5,111	2,648	5,354	1,497	4,274	従業者数(人)	
1,184	664	1,427	279	683	製造品出荷額等(億円)	
722	632	465	1,088	575	事業所数(所)	商業
6,297	4,084	3,305	9,829	3,215	従業者数(人)	
2,401	884	2,854	5,315	891	年間商品販売額(億円)	

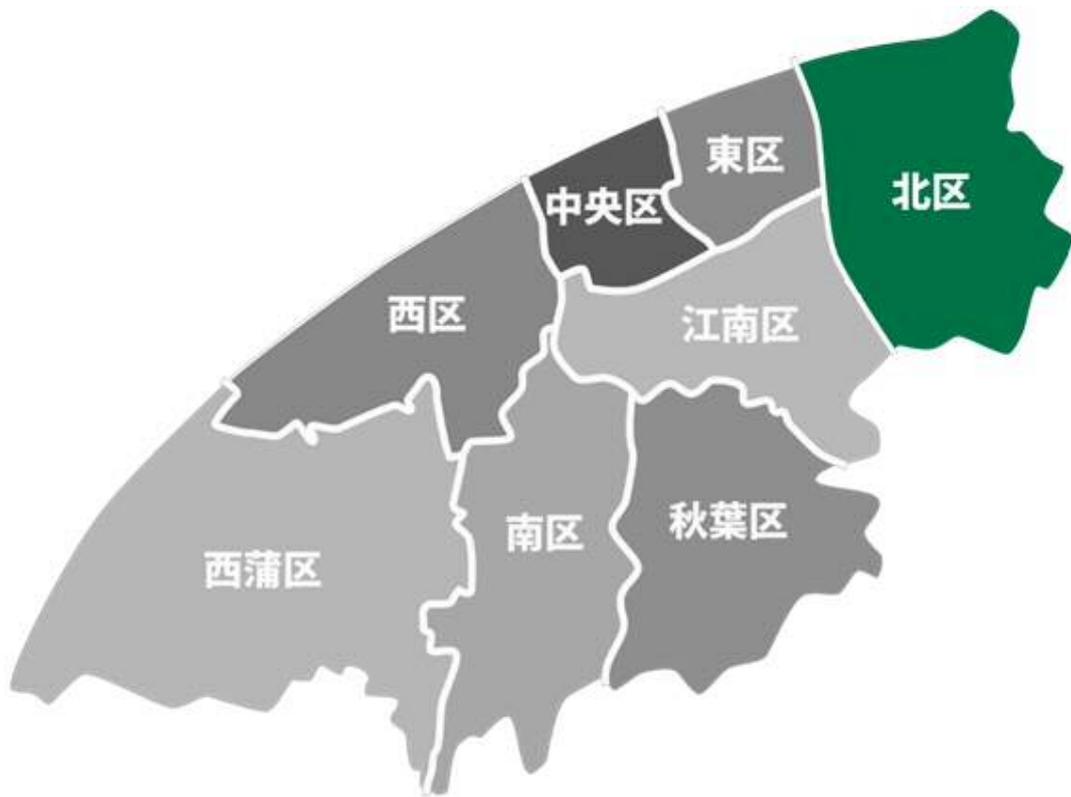
(※1) 平成22年人口総数には年齢不詳者も含まれているため、年齢3区分別人口と一致しない。  
 総数に占める割合は年齢不詳者を除いて算出している。  
 平成47年推計人口の新潟市全体は国立社会保障・人口問題研究所資料、  
 区別人口は新潟市推計によるため合計値は一致しない。





# 北 区

《自然・活力・安らぎにあふれるまち  
—住みたくなるまち 北区—》



# 北 区

## 【区の概要】

### 《地理》

北区は、阿賀野川以北に位置し、東は新発田市、聖籠町に、南は阿賀野市に隣接しています。区内には、福島潟などの湖沼、阿賀野川などの河川、海岸線の松林や見渡す限り広がる田園風景など、豊かな自然環境があります。特に、福島潟は、国の天然記念物オオヒシクイの日本一の越冬地として知られています。（図1） また、区内にある新潟東港は、本州日本海側で最大のコンテナ取扱量を誇る国際拠点港湾として発展しています。

### 《産業》

国際拠点港湾-新潟東港を擁する日本海側最大規模の新潟東港工業地帯は、優れた交通アクセスに恵まれ、工業拠点や対岸貿易の玄関口として発展しており、活発な生産活動が行われています。

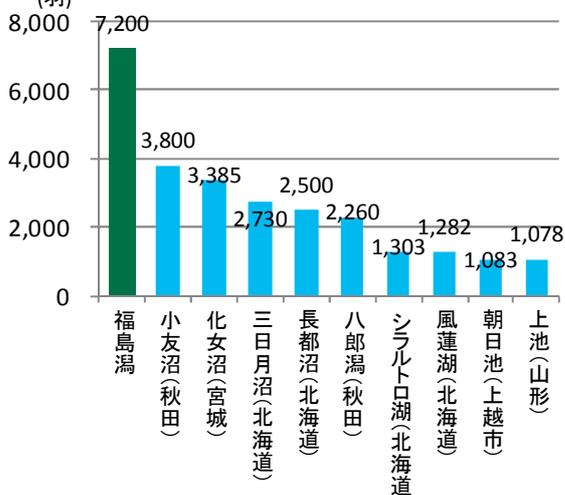
また、農業分野では、稲作をはじめ多様な生産活動が行われており、砂丘園芸、施設園芸などは高い評価を受けています。なかでもトマトとなすは県下の販売量を誇っています。（図2）

### 《交通》

主要な道路は、日本海東北自動車道、国道7号、国道113号が東西に通り、県道、市道と結ばれています。鉄道は、幹線道路と平行してJR白新線が通っており、4駅が設置されています。バスは、市の中心部及び新発田方面へと運行されているほか、区バス・住民バスなどが区内の移動手段としての役割を担っています。

図1 ヒシクイの最大個体数

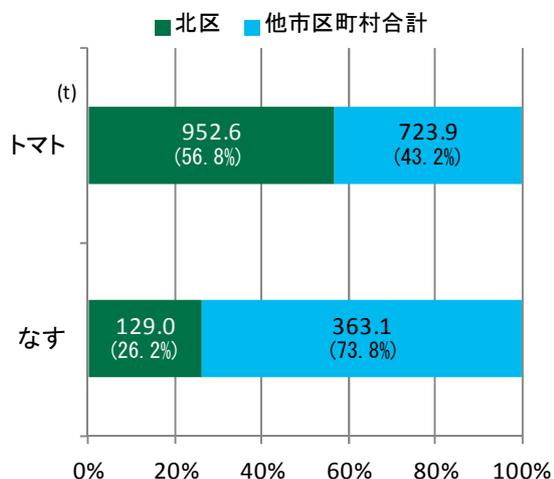
（亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ含む）



資料：平成25年度重要生態系監視モニタリング推進事業（環境省自然環境局）ガンカモ類調査業務 2012/13 調査速報

図2 区の県内における

販売量の割合



資料：全農にいがた (H25)

## 【区の将来像】

《自然・活力・安らぎにあふれるまち 一住みたくなるまち 北区一》

## 【目指す区のすがた】

《豊かな自然と共生するまち》

- 福島潟をはじめ、阿賀野川などの河川、海岸や田園風景など、先人たちが残してくれた豊かな自然環境や水辺空間を保全し、自然と共生するまちを目指します。
- 豊かな自然環境を積極的に活用することで、その新たな魅力を引き出し、市民が憩えるまちを目指します。

《都市機能が充実したまち》

- 道路整備や公共交通サービスのさらなる充実を図ることにより、利便性の高いまちを目指します。
- 国際拠点港湾-新潟東港の港湾施設の整備及び港湾機能の拡充を目指します。
- 豊栄駅周辺のまちづくりと都市基盤整備の充実を目指します。

《活力ある産業のまち》

- 産学官の連携による新産業の育成や企業立地環境の整備を推進し、雇用の場の創出を目指します。
- 地域の魅力を活かした商業の振興を図り、活力あるまちを目指します。
- 安心安全な農水産物を供給するとともに、6次産業化を推進し、「稼げる」農水産業を目指します。自然や文化資源を活かし「キテ・ミテ・キタクなるまち」を目指します。

《学びあい、健康で、人にやさしいまち》

- 文化・スポーツ活動を通して、区民のさらなる一体感の醸成を目指します。
- 学びあいやふれあいを通して、地域に誇りをもてる人づくりを目指します。
- 支えあい、助けあいを大切に、安心していつまでも健康で暮らせるまちを目指します。
- 子育て支援の環境を整え、子どもを安心して産み育てることのできるまちを目指します。

## 《安心安全で暮らしやすいまち》

- 福祉，安全，教育など，さまざまな地域課題に対して，自治会・町内会，地域コミュニティ協議会，区自治協議会などと協働して解決にあたり，豊かで安心して暮らせるまちを目指します。
- 地域の自主防災組織と連携するなど，防災体制の強化を図るとともに，防犯活動や交通安全の推進に取り組み，人にやさしく安心で安全なまちを目指します。

# 東区

《豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、  
笑顔と元気があふれる、空港と港があるまち》



# 東 区

## 【区の概要】

### 《地理》

東区は市の中心部から東側に展開した市街地であり、市を代表する工業地域として発展してきました。区の北側は日本海に面し、西部に信濃川と栗ノ木川、東部に阿賀野川が流れ、中央部には信濃川と阿賀野川の流路として水運を担った通船川が、区の東西を横断する形で流れています。また、空と海の玄関口である新潟空港と新潟西港を有しており、大勢の利用客でにぎわっています。

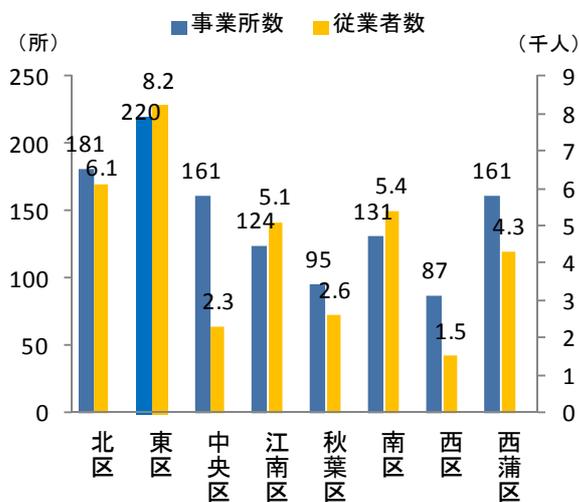
### 《産業》

区内には工場が集積し、また、多様な規模の卸売業や小売業などがあり、商工業が発達しています。(図1、2) 農業は、区の東部に広がる水田地帯を中心に行われている稲作のほか、区内に点在する農地で、やわ肌ねぎやじゃがいもをはじめとしたさまざまな農産物が生産され、地産地消を目指した取組みが行われています。

### 《交通》

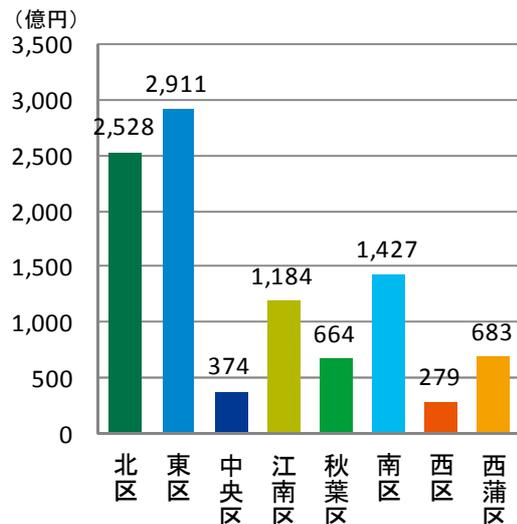
東西方向に走る国道7号、国道113号、県道新潟新発田村上線と、南北方向に走る県道新潟港横越線(通称：赤道)などの主要幹線道路が結ばれることにより、優れた交通基盤を形成しています。鉄道は、区の南部にJR信越本線とJR白新線が通っており、3駅が設置されています。バスは、市の中心部と結ばれた路線が、主に東西方向に運行されています。

図1 製造業の事業所数及び従業者数(区別)



資料：経済センサス-活動調査(H24)

図2 製造品出荷額等(区別)



資料：経済センサス-活動調査(H24)

## 【区の将来像】

《豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、笑顔と元気があふれる、  
空港と港があるまち》

## 【目指す区のすがた】

《心地よく暮らしやすいまち》

- 進行する少子・超高齢社会のなかで、子どもから高齢者まで誰もが健康で安心安全に暮らせるまちを目指します。
- 交通の利便性の向上を図り、快適な生活環境づくりを推進することにより、暮らしやすいまちを目指します。
- 区民との約束である「東区サービス憲章」を遵守し、行政サービスの向上に努め、信頼される区役所を目指します。

《人が育つまち》

- 地域・学校・家庭・行政が連携して未来の担い手である子どもたちの育ちを支援するとともに、地域の課題解決や生きがいづくりにつながる生涯学習の機会を充実させることにより、多様な人材が育つまちを目指します。

《地域の力が活かされるまち》

- 地域で活動している各種団体への支援を充実させ連携を図ることにより、地域の力が発揮できるまちを目指します。

《魅力あふれるまち》

- 産業のまち、豊かな水辺に囲まれるまち、空と海の玄関口のまち、という東区の魅力を区内外に発信し、活力あるまちを目指します。



# 中央区

《歴史と文化の薫りただよう、  
うるおいと にぎわいのまち》



# 中 央 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

区内では土地の高度利用が進み、さまざまな都市機能が集積しています。その一方で、国の重要文化財である萬代橋や湊町の歴史的建造物など、伝統的文化を感じることもできるまちなみも存在しています。

### 《産業》

古町、万代、新潟駅周辺に代表される市街地は、商業集積がにぎわいを見せ、ヒト・モノ・情報が活発に行き交う、本市の商業の中心となっています。(図1)

また、北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組みが進められています。

### 《交通》

高速道では、北陸道、磐越道、日本海東北道の3路線の結節点を擁し、一般道では国道7号、同8号、同116号などのほか、県道や市道が中心市街地に向けて整備されています。

鉄道は、3駅が設置されており、新潟駅には、上越新幹線のほか、在来線では信越本線、白新線、越後線が集まっています。(図2)

バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されています。

海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトルバスが運行されています。

## 【区の将来像】

《歴史と文化の薫りただよう、うるおいと にぎわいのまち》

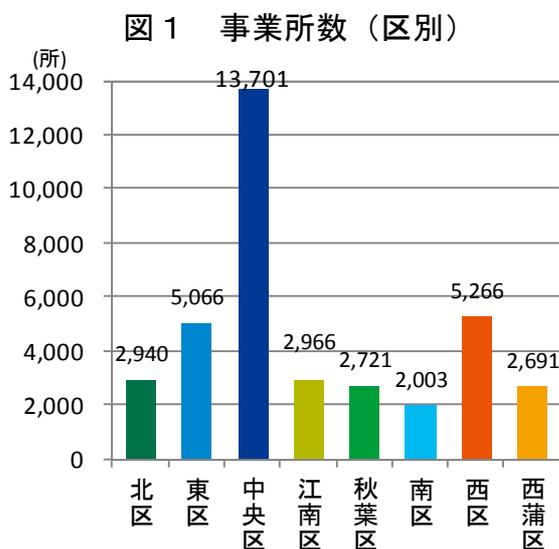
## 【目指す区のすがた】

《魅力的で活力あふれる拠点のまち》

- さまざまな都市機能が集積した都心を有する区として、ヒト・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして訪れる人にとって魅力的で、にぎわいあふれるまちを目指します。
- 美しい景観形成に努めるとともに持続可能な公共交通体系の整備を進め、まちなかの活性化を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

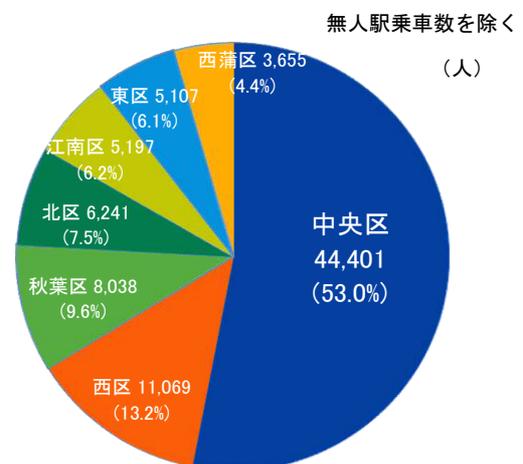
《安心してすこやかに暮らせるまち》

- 下町（しもまち）をはじめ少子高齢化が進展するなか、区民のつながりを大切にして地域コミュニティを充実させ、互いに支え助け合い、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指します。
- 多様な人々が行き交う生活環境において、子どもたちを安心して生み育てる環境の整備に努め、家庭・地域・学校が連携を深めることで子どもたちが健全に育まれるまちを目指します。
- 自然災害や都市型災害など、発災時に区民一人ひとりが適切な判断と行動をとれるような仕組みづくりやコミュニケーションづくりを進め、災害に強いまちを目指します。



資料：経済センサス-活動調査（H24）

図2 JR駅一日平均乗車数（区別）



資料：東日本旅客鉄道(株)「各駅の乗車人員(H24)」

### 《水と緑が調和したやすらぎのあるまち》

- 都心部を流れる信濃川とともに，鳥屋野潟，日本海の豊かな水辺や緑を守り育むことで愛着と誇りをもち，自然と共生できるやすらぎのあるまちを目指します。

### 《未来につなぐ歴史・文化のまち》

- 開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれる湊町文化を受け継ぐとともに，食文化の交流や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより，さまざまな文化が融合した，未来につながるまちを目指します。
- 新潟まつりをはじめ，各地域に伝わる歴史・文化を若い世代に語り継ぐことで，住む人々が文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め，郷土を大切に作る人づくりのまちを目指します。

# 江南区

《緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち》



# 江南区

## 【区の概要】

### 《地理》

江南区は、本市のほぼ中心に位置し、西蒲区以外の全ての区と接しています。信濃川、阿賀野川、小阿賀野川、日本海東北自動車道に囲まれ、亀田、横越、曽野木、大江山、両川の5つの地区で構成されており、豊かな自然環境と都市機能の調和が図られています。

国の登録有形文化財の北方文化博物館や、御衣黄<sup>ぎょいこう</sup>という緑色の花を咲かせる珍しい桜があることでも有名な北山池公園、スポーツ・文化の拠点である亀田総合運動公園（アスパーク亀田）など、人々が集い、憩いの場となっています。

### 《産業》

土地改良事業により整備された広大な優良農地では、稲作のほか、なす、梅、梨、いちご、とうもろこしなどの生産による都市近郊型農業が展開されています。（図1）

交通の利便性が高い工業団地、食品団地では製造業が盛んで、大型ショッピングセンターや中央卸売市場は人・物の交流の場として、賑わいを見せています。（図2）

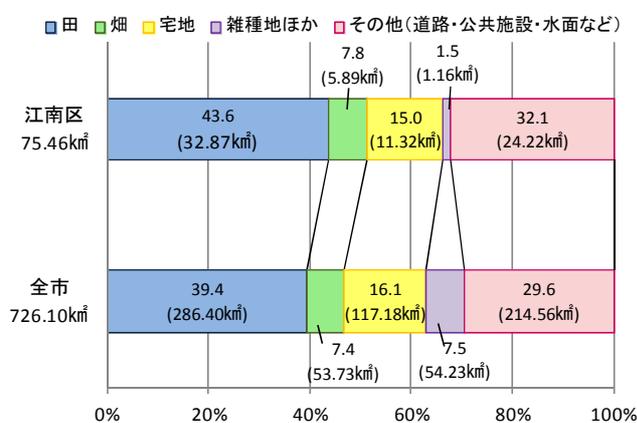
### 《交通》

主要な道路である、日本海東北自動車道、磐越自動車道をはじめ、国道49号、国道403号、県道などの結節点となっています。

鉄道は、JR信越本線が通っており、1日平均乗車人員が5千人を超えるJR亀田駅があります。

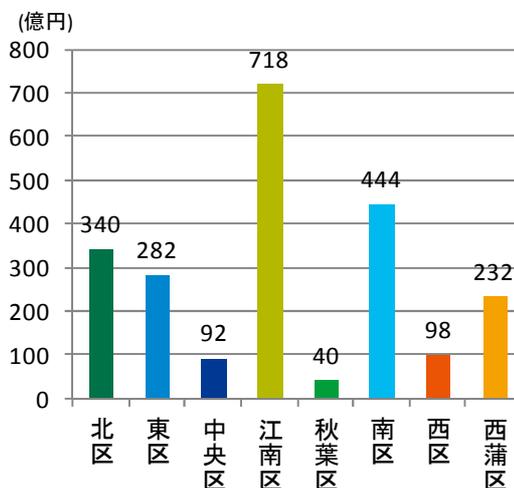
バスは、市中心部や新津方面などを結んで運行されているほか、区バス・住民バスが身近な公共交通として利用されています。

図1 江南区の土地利用割合



資料：新潟市（H26.1.1）

図2 食料品製造業出荷額(区別)



資料：経済センサス-活動調査（H24）

## 【区の将来像】

《緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち》

## 【目指す区のすがた】

《豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち》

- 主要な道路の結節点やJR信越本線を有する交通の要衝としての利便性を活かして、人と物が交流し誰もがいきいきと快適に生活できるよう、道路や公共交通などの環境整備を進め、都市機能の向上を図ります。
- 緑豊かに広がる田園風景と信濃川、阿賀野川、小阿賀野川を結ぶ水と緑のネットワークづくりやその活用と、資源循環型社会の構築を目指した環境にやさしいまちづくりを推進するなど、自然環境との共生を図り、未来の世代につなげます。

《人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち》

- 震災、風水害、津波災害などさまざまな自然災害から区民の生命と財産を守るため、地域の特性を踏まえた災害に強いまちづくりを進めます。  
自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守る交通安全・防犯意識の高い地域社会の実現を目指します。
- 住み慣れた地域で、生涯を健やかに安心して暮らせるまちを目指します。  
誰もが気軽に立ち寄れる場や活動の拠点づくりを進めるとともに、「ふれあいと支えあい」を大切にし、人と人とのつながりを感じられるまちを目指します。

《創造的な産業を育む活力のあるまち》

- 地元の多様な農産物を活用することで、農業と商工業の連携による創造的な産業の育成を図り、江南区ならではの個性と魅力あるものづくりを進めるとともに、新たな雇用の創出を目指します。
- 地域が一体となり、そこに培われた風情や歴史など“地域らしさ”を感じさせる、活力と魅力にあふれた賑わいのあるまちなかを創出し、交流人口の拡大を目指します。

### 《未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち》

- 将来を担う大切な人材である子どもたちの健やかな成長に向けて、学校と家庭や地域が連携して学・社・民の融合により、教育力の向上を図ります。
- 先人から受け継がれた歴史や伝統を継承し、多様な文化芸術にふれる機会の創出や市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりなど、さまざまな個性が発揮でき、生涯にわたり人が輝くまちを目指します。

### 《区民がまちづくりの主役として輝くまち》

- さまざまな地域課題解決に向けて、区自治協議会、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会などとの協働をさらに深め、区民が主役となる自治の実現を目指します。
- 江南区サービス憲章に基づき、区民の立場に立って迅速・丁寧な対応を目指すとともに、多様な区民の声を大切にする区役所づくりを進めます。

# 秋葉区

《花と緑に囲まれた，笑顔咲きそろう，  
にぎわいのあるまち》



# 秋葉区

## 【区の概要】

### 《地理》

秋葉区は、新潟市の南東に位置し、東西を阿賀野川、信濃川の二大河川に囲まれ、北には小阿賀野川、そして秋葉山、菩提寺山などの里山・丘陵地に囲まれた緑豊かな自然環境に恵まれています。また、鉄道や石油のまちとして知られ、新津鉄道資料館や石油関連施設、古津八幡山遺跡などの貴重な歴史文化遺産が多く残っている地域です。なお、人口は8区のなかで4番目ですが、高齢化率は最も高い状況にあります。(図1)

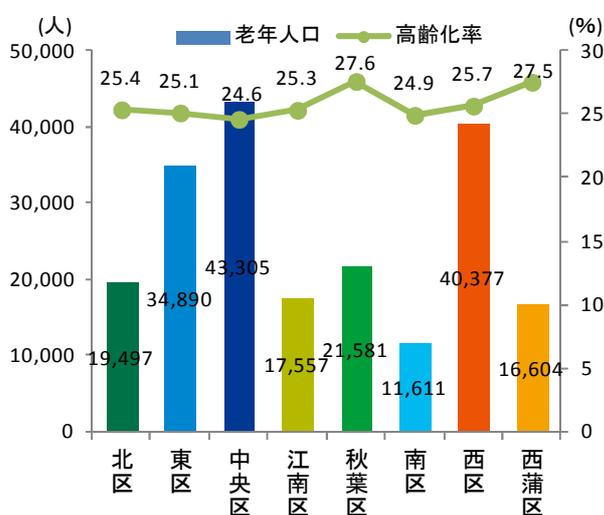
### 《産業》

花き・花木類の生産は区の大きな特色の一つであり、特にアザレア、ボケは日本有数の産地として知られています。(図2) 工業分野では輸送用機械や電子部品の生産も盛んです。さらに、産学官連携により、食品機能性をはじめとしたバイオテクノロジーを活用した研究開発が行われ、新産業の創出や産業技術の高度化を図っています。

### 《交通》

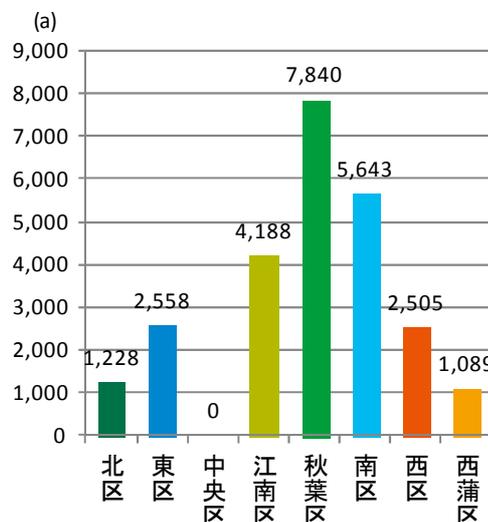
国道403号が南北に、国道460号が東西に通っているほか、新潟と福島を結ぶ磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。鉄道は、区内に7つの駅が設置されており、新津駅ではJR信越本線、羽越本線と磐越西線が交わっています。磐越西線を走る「SLばんえつ物語」号が、4月～11月の週末を中心に運行しています。バスは新津駅を中心に市中心部、南区や五泉市方面などへ運行され、区民の足として、区バスを運行しています。

図1 老年人口と高齢化率(区別)



資料：住民基本台帳人口（H26.3末現在）

図2 花き類・花木栽培面積(区別)



資料：世界農林業センサス（H22）

## 【区の将来像】

《花と緑に囲まれた，笑顔咲きそろう，にぎわいのあるまち》

## 【目指す区のすがた】

《うるおいとやすらぎのあるまち》

- 緑豊かな里山秋葉丘陵と信濃川や阿賀野川，新津川，能代川はやすらぎと潤いをもたらす，これらの恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な財産として，保全と活用に努め，人と自然が調和した美しい景観のまちを目指します。
- 環境に配慮したライフスタイルへの転換を市民協働で取り組み，低炭素型・循環型・自然共生型社会の実現を目指します。

《楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち》

- 産学官，地域が連携した，活気あふれる，楽しく，元気なまちなかを目指します。
- 地域との協働による，持続可能なまちづくりのための強固な土台づくりに努め，安心・安全なまちを目指します。
- みんなが支え合い，健康でいきいきと暮らせる，やさしさのあるまちを目指します。
- 「森育」「花育」「食育」など，秋葉区の特徴を活かしながら，魅力ある子育て・教育環境が整った，次世代を育むまちを目指します。

《歴史と個性を活かすまち》

- 里山や鉄道，石油，花き・花木，町屋など，秋葉区固有の歴史ある文化や宝物を内外へ積極的に情報発信し，地域とともに，個性を活かした交流のあるまちを目指します。
- 秋葉区固有の文化の継承と創造による文化活動の振興と，スポーツを通じた健康で豊かなスポーツ活動の振興に努め，文化とスポーツの拠点のまちを目指します。

《花のまち・食のまち・育てるまち》

- 全国屈指の花き・花木の園芸産地としての拠点性を一層高めながら，優良農地を活用し，環境にやさしい安心・安全な農産物の供給を目指します。
- 新潟薬科大学，商店街などと連携した食品産業の振興を図り，ニューフードバレーの推進につながる食によるまちづくりを目指します。

## 《生み出し活かすまち》

○これまで培われてきた産業を育成するとともに、バイオ技術に関する学術・研究の拠点化と、産学官、地域が連携して新たな可能性を発信するまちを目指します。

# 南区

《大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた  
郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち》



# 南 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

南区は本市の南部に位置し、南北に長い地形で、市内8区のなかで西蒲区、北区に次ぐ広大な面積を有しています。

地勢は平坦で、区の東側を信濃川が、中央を中ノ口川が流れ、両河川によってはぐくまれた肥沃な農地が広がっています。

また笹川邸（国重要文化財旧笹川家住宅）や、昭和初期の懐かしい駅舎と列車を残す旧月潟駅など、歴史や文化に親しめる場が数多く存在しています。

### 《人口》

人口減少、少子・超高齢化が急速に進む近年、南区においては、平成22年の国勢調査を基準とした区別将来推計人口によると、平成27年以降では8区中2番目に大きな減少率が見込まれ、65歳以上の人口割合については、平成47年において8区中最も高い伸び率が予想されます。

### 《産業》

仏壇や鎌などの伝統的な地場産業や工業団地の立地により製造業が盛んです。（図1）

農業分野では、稲作や果樹栽培が盛んで、西洋ナシのルレクチエや日本ナシ、桃、ぶどうなど数多くの果物が生産されています。（図2）野菜や花の産地としても知られ、食用菊やチューリップ切り花が有名です。さらに、アグリパークや、多くの観光農園ではさまざまな体験を通して農業の楽しさや大切さを学ぶことができます。

また、世界最大級の白根大凧合戦など、数多くのイベントを活用した観光分野にも力を入れています。

### 《交通》

主要な道路は、国道8号が南北に、国道460号が東西に通り、県道、市道と結ばれています。

南区内には軌道系の交通機関がなく、市中心部、秋葉区、西蒲区、加茂市、燕市方面など、区外と結ぶ路線バスのほか、区内では、区バスや住民バス、タクシーを活用したデマンド交通が主要な公共交通としての役割を担っています。

## 【区の将来像】

《大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた  
郷土愛にあふれる、いきいきと暮らせるまち》

## 【目指す区のすがた】

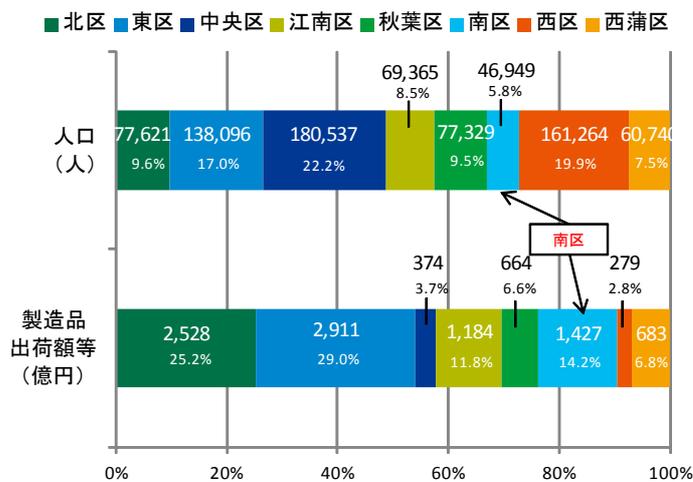
《ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち》

- 信濃川と中ノロ川の両河川によってはぐくまれる豊かな自然環境と調和した、安心・安全で、住みよいまちを目指します。
- 子どもから高齢者まで地域のなかで、支えあい、学びあい、はぐくみあう、笑顔があふれるまちを目指します。
- 地域力・市民力を発揮する、区民みんなが主役となるまちを目指します。

《誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち》

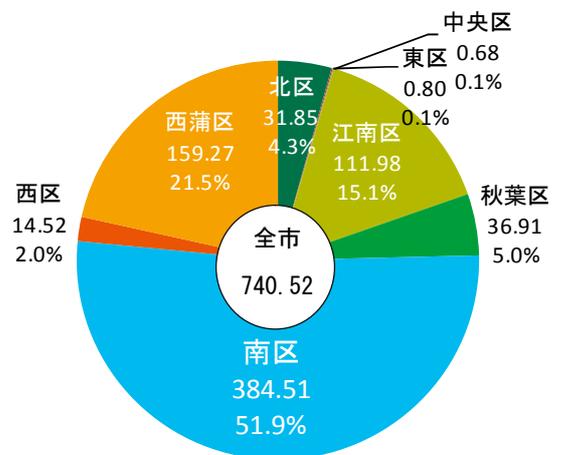
- 都心や近隣地域、区内各地域へのアクセスの向上を図り、都市基盤と公共交通の機能強化を進め、全ての人にとって、交通の利便性が高いまちを目指します。

図1 人口と工業の構成割合(区別)



資料：国勢調査 (H22), 経済センサス-活動調査 (H24)

図2 樹園地(果樹畑)総面積の構成割合(区別) (ha)



資料：世界農林業センサス (H22)

《農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち》

- 良質で新鮮な農産物の生産を続けてきた特性を基盤とし、農業活性化研究センターや関係機関・団体と連携し、先進的な取組みを実践しながら、付加価値の高い農産物を供給するまちを目指します。
- 歴史と伝統に支えられた確かな技術の継承と、商店街の活性化を進めながら、農業・商業・工業が相乗的に発展する、誰もがいきいきと働けるまちを目指します。

《大凧が舞い、獅子が跳ね、ル レクチ工が実るまち》

- 四季折々に楽しめる食と花をはじめ、勇壮な白根大凧合戦や大庄屋の風格を今に伝える笹川邸、江戸時代から伝わる郷土芸能角兵衛獅子など、多様で豊富な観光資源の魅力を発信し、交流の輪が広がるにぎわいのあるまちを目指します。

# 西 区

《都市と農村が融合する、うるおいの  
住環境と優れた学術環境に育まれるまち》



# 西 区

## 【区の概要】

### 《地理》

西区は、信濃川及び関屋分水路以西に位置し、坂井輪地区、西地区、黒埼地区で構成されています。区内は鉄道沿線や幹線道路沿いを中心に良好な住宅地が形成され、西には砂丘畑、南には田園地帯が広がり、都市部と農村部がバランスよく存在しています。(図1) また、河川・潟・海などの豊かな水環境に恵まれているとともに、大学などの学術研究機関が多くあります。(図2)

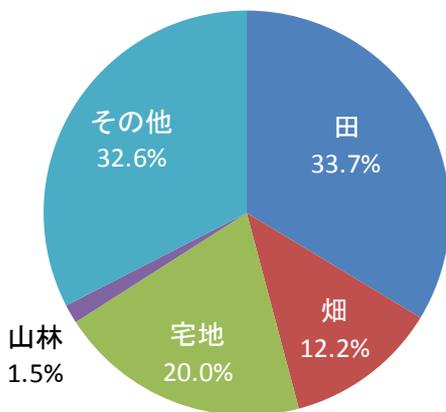
### 《産業》

幹線道路沿いには、物流基地の流通センターや多くの商業店舗が立地しています。農業分野では、稲作を主体としながら畑作も盛んで、くろさき茶豆・新潟すいか・赤塚大根などが県内外に知られています。また、新潟砂丘さつまいも「いもジェヌ」などのブランド化が進められています。

### 《交通》

主要道路は、区の東側を南北に北陸自動車道が通り、新潟西インターチェンジ・黒埼スマートインターチェンジがあるほか、国道116号や国道8号・国道402号が通っています。鉄道は、市街地を東西に結び、JR越後線の駅が7つ設置されています。バス路線も主に東西に、市の中心部と結ばれていますが、南北のバス路線は住民バスが担っています。

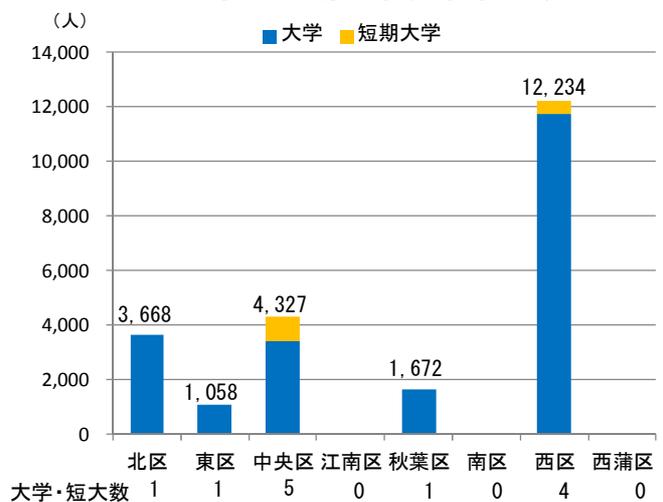
図1 西区の土地利用割合



※その他：道路、公共施設、水面、自然地など

資料：新潟市 (H26.1.1)

図2 大学・短期大学在学学生数(区別)



資料：各校ホームページ (H26)

## 【区の将来像】

《都市と農村が融合する，うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち》

## 【目指す区のすがた】

《人と人がつながり，安心・安全に暮らせるまち》

- 地域のなかで人と人とのつながりを大切にし，区民が安心していつまでも元気で健康的に生活できるまちを目指します。
- 災害時に素早く対応するとともに被害の最小化を図り，災害に強い安心・安全なまちを目指します。

《都市と農村が融合するまち》

- 良質で魅力的な農産物の生産を進め，特産物のブランド化を推進します。また，特産物を県内外に発信し，さらに農商工連携により付加価値を高めるとともに，商店街の活性化にもつなげていきます。
- 都市と農村が融合する西区の特性を活かして，生産と消費をつなぎ，さらなる一体感の醸成を図ります。

《だれもが学び合える学術と文化のまち》

- だれもがいつでも学び合える環境や，学びを活かして地域に貢献できる環境づくりを推進します。
- 地域の文化や歴史を大切にし，新たな文化の創造を支援するとともに，スポーツの振興を図ります。

《豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち》

- ラムサール条約湿地である佐潟をはじめ，河川や海岸などの美しい景観を未来に引き継いでいきます。また，その自然を活かした観光や魅力あふれるスポットについて情報発信することにより交流人口を増やし，活力のあるまちを目指します。
- うるおいのある快適な住環境づくりを推進し，明るい笑顔で住みたい・住んで良かったと思えるまちづくりに努めます。

## 《地域と区役所が共に歩むまち》

- 地域における自治を推進し，区民と区役所が協働で地域課題に取り組む体制をさらに強化します。
- 区民が笑顔になれるように，区役所職員がおもてなしの精神で親切・丁寧なサービスを提供します。

# 西蒲区

《豊かな自然，歴史と文化のかおりに  
満ちあふれ，人と人があたたかくつながるまち》



# 西 蒲 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

西蒲区は本市の西部に位置し、南区、西区及び長岡市、燕市、弥彦村と隣接しており、区内は巻、漆山、峰岡、松野尾、角田、岩室、西川、湯東、中之口の9地区で構成されています。

区の東側は美しい田園が広がるとともに、西側は日本海に面し風光明媚な越後七浦海岸と角田山、多宝山、上堰潟などがあり、豊かな自然環境と観光資源に恵まれています。

### 《産業》

西蒲区の基幹産業は農業であり、稲作のほか、本市の「食と花の銘産品」に指定されている「越王おけさ柿」、「巨峰」、いちじく「越の雫」をはじめとする果樹や、砂丘地帯を中心に多様な園芸作物の生産も盛んです。

また、確かな技術が求められる工業製品の製造を担う多くの事業所や、航空機部品製造の分野で最先端技術を駆使する特徴ある企業などが事業を展開しています。

さらに、恵まれた自然環境や観光資源を活かした観光も重要な産業であり、なかでも新潟の奥座敷と呼ばれている岩室温泉は、本市唯一の温泉街として県内外から多くの観光客が訪れます。

### 《交通》

区外に向けた幹線交通は、区の中央を南北に縦断するJR越後線と、東部を縦断し多数の高速バスが走る北陸自動車道があり、交通結節点として巻駅・越後曽根駅・岩室駅の3駅と、大規模駐車場を備える巻湯東インターチェンジが重要な役割を果たしています。

また、区内の移動を担う交通として、各交通結節点に接続する路線バスが運行されています。

主要な道路は、区の中央を国道116号、海岸線を国道402号がそれぞれ南北方向に通っており、それらを結ぶ国道460号が東西方向に通っています。

## 【区の将来像】

《豊かな自然，歴史と文化のかおりに満ちあふれ，  
人と人があたたかくつながるまち》

## 【目指す区のすがた】

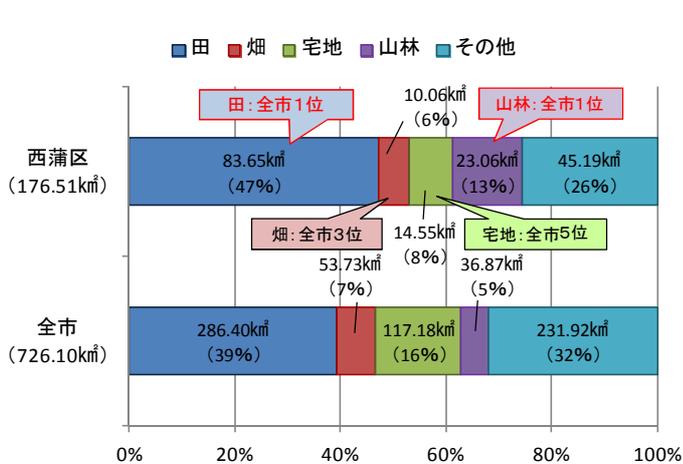
《魅力あふれる農水産物を供給するまち》

- 田園型政令市にふさわしい広大な優良農地や，日本海に面し漁港を備える立地を活かし，高品質で多様な「西蒲ブランド」の農水産物の供給拠点となるまちを目指します。(図1)
- 農業体験や観光漁業などを通じ，生産者と消費者の交流を深めていくとともに，生産から加工，販売まで手がける6次産業化の推進などにより農業・水産業の魅力を伝え，将来の担い手が育つまちを目指します。

《観光とレクリエーションのまち》

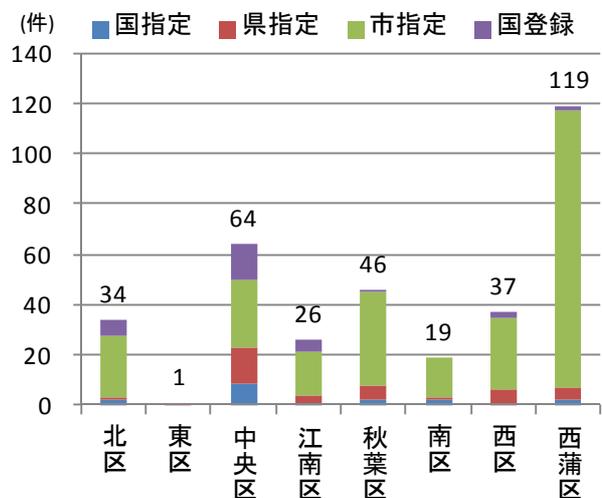
- 越後七浦海岸や角田山，多宝山，上堰湯などの豊かな自然環境や数ある歴史的文化遺産と岩室温泉を有機的に結び，多彩な楽しみ方ができる観光拠点となるまちを目指します。
- 超高齢社会に対応し，豊かな自然環境を活かしたウォーキングや，高齢者向けの競技を含む各種スポーツの推進などにより，多様なレクリエーションの普及を図り，「健幸」づくりのまちを目指します。

図1 西蒲区の土地利用割合



資料：新潟市 (H26.1.1)

図2 市内の指定・登録文化財件数(区別)



資料：新潟市文化財調査概要 (H25)

### 《歴史と文化を守り伝え続けるまち》

- 角田山のふもとに点在する数多くの遺跡などに光をあて、いにしへの時代からこの地に連綿と続く人々の営みについて、それらを学ぶ環境と語り部を育み、将来にわたり伝え続けます。
- 江戸時代、さまざまな文化を伝えた北国街道や、郷土玩具の「鯛車」、「のぞきからくり」、「越後傘ぼこ」など、西蒲区に古くから伝わる文化を内外に発信し、後世まで守り伝え続けます。(図2)

### 《人が行き交う活力あふれるまち》

- 西蒲区の実情に合った公共交通体系を構築し、だれもが移動しやすい環境を整えることで地域の交流促進を図り、人が行き交うにぎわいのあるまちを目指します。
- 高速交通アクセスに恵まれた立地条件を活かした新たな企業誘致の推進や、商工業のさらなる振興により雇用創出と定住者確保を図ることで、活力あふれるまちを目指します。

### 《人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち》

- 地域ぐるみで支えあう人の和を醸成し、だれもが笑顔で安心して暮らし続けられる、あたたかみあふれるまちを目指します。
- 地域のだれもが次代を担う子どもたちの学びを支え、学び合いを通じて人と人とのつながりが生まれ、広がるまちを目指します。
- 区自治協議会、地域コミュニティ協議会、自治会、自主防災組織など、住民自治を担うあらゆる主体の連携を深め、課題解決に向けて地域全体で取り組む安心・安全なまちを目指します。